

## ＜退任ご挨拶＞

### 農業研究所所長 横山 幸徳

この度、皆様のお陰をもちまして農業研究所長を最後に県を退職させて頂くことになりました。顧みますれば、私が県に入庁した当時は高度経済成長期に当たり、農業分野においては、昭和36年に制定された「農業基本法」に基づいた農業の生産性向上を目的とした生産基盤の整備、専業農家の育成に向け、行政、普及、研究一体となり邁進している時期でありました。この結果、機械化・大型化・効率化に拍車がかかり、我が国農業は大きく変革し成長した反面、若者の農業離れに伴う農村の高齢化などの現代の抱える農業の問題が生まれていった時期でもありました。当時若手研究員でありました私は、農業機械の研究室で機械化・省力化・低コスト化の研究などに明け暮れていたことが思い出されます。

平成に入りますと国際化と競争力強化そして環境保全、農産物の安全安心など新たな時代のニーズに対応する「新農政」が発表されました。しかし、平成5年には冷夏による米の不作に伴う米の輸入、ガットウルグアイラウンドによる農産物輸入の自由化、新食糧法の制定と、農業は国際化に翻弄され、様々な問題を抱えつつ現在を迎えています。

国際的な食糧需給動向に影響を受けながら、消費者のニーズに対応した安全安心な食糧の安定供給、そして農村の多面的機能の積極的な活用など、農業研究はこうした時代の流れに対応した技術開発を進め、農業全体の技術レベルの向上に貢献してきたと思っています。

今後も、時代の変化を予測し、迅速に対応できる技術、そして時代の流れに翻弄されない確固たる栽培技術の開発により、生産者及び関連産業の皆様のお役にたつて行かなければならないと考えております。幸いにも、農業研究所にはこうした技術開発を進める優秀な人材が多く育っていますので、退任後も農業研究を側面から応援したいと考えております。今後とも農業研究所に対しまして皆様の温かいご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

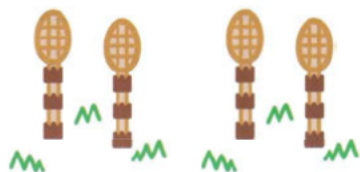


### 畜産研究所所長 余谷 行義

この度、畜産研究所長を最後に定年退職を迎える事となりました。関係者の皆様には、長い間、ご指導、ご鞭撻を賜りありがとうございました。

振り返ってみれば、団塊世代の最後の組として、多くの先輩諸氏や同期の方々に挟まれ、受験競争・学園闘争・就職戦争・・・と、まさに競争に明け暮れた学生生活を終え、縁あって昭和48年に三重県に入庁。世はまさに高度経済成長期を迎え、大量生産・大量消費の飽食の時代と言われ、畜産業界においても「規模拡大と生産性の向上」が至上命令でした。しかし、急激な変革は、その後の時代に多くの負の遺産を残しました。畜産業においては、ふん尿処理の不適による畜産公害が大きな社会問題となり、これが原因で廃業する事例も多々ありました。また、為替相場における円高が進むなか、輸入飼料依存型畜産が増加し、飼料自給率の低下が問題となりました。

平成にはいと、畜産物の輸入自由化を契機に産地間競争が激化し、「品質向上と高付加価値化」が大きく取り上げられるとともに、国際化にともなう海外悪性伝染病の侵入等が風評被害や偽装問題を引き起こして「健康・安全・安心」がキーワードとなり、現在ではエコフィードの利用、耕畜連携による飼料用米や飼料イネ・麦などの自給飼料増産と自給率向上が注目されています。畜産研究所においては、この様な時代の流れに対応した技術開発や時代を先取りした課題に取り組み、畜産業全体の技術レベル向上に努めてきたと考えています。これからも、畜産研究所は、生産者や県民のニーズに迅速に対応できる体制で、さらに信頼される研究機関を目指しますので、皆様のご支援ご指導をお願い申し上げます。



最後に、長年の畜産研究所の懸案事項であった畜舎を中心とした施設整備事業も、皆様方のご理解ご支援のもと、本年度をもって完了し、新しい時代に対応した試験研究業務に専任できる体制が整いました。公務員生活の最後の時期に、このような大きな事業に取り組めたことを誇りに思うとともに、関係各位に深謝いたします。